

これから日本での  
就職をめざす  
留学生の皆さんへ  
先輩からの  
メッセージ

# 群馬大学留学生 就職報告会2009

アジア人財資金構想 高度専門留学生育成事業

平成22年3月



国立大学法人 群馬大学  
国際教育・研究センター

委託者：経済産業省関東経済産業局

委託先：国立大学法人 群馬大学

■ これから日本での就職をめざす留学生の皆さんへ先輩からのメッセージ ■

## 平成21年度 群馬大学留学生就職報告会

「アジア人財資金構想」高度専門留學生育成事業（経済産業省・文部科学省）

### 1. 厳しい就職状況を受けての報告会

平成19年度から2年連続して開催してきた「群馬大学留学生就職報告会」も、今年度で3回目を迎えました。この会は、アジア人財資金構想プログラムにおける就職支援講座の一環として実施されるものですが、今年度のスピーカー4名のうち2名が、このプログラム生として就職内定を得た学生でした。



世界的な金融不安の影響を受けて、日本国内の景気が悪化している中での報告会であったためか、参加する留学生の目はいずれも真剣でした。一方、この厳しい就職状況の中で内定を勝ち得た先輩留学生からも「自分の経験をぜひ後輩に伝えたい」という使命感のようなものが感じられました。そのため、会場内での質疑応答は例年になく熱のこもったものになりました。

### 2. 何が行われたか？

実施日時：12月1日（火）（17：50～19：30）

場 所：群馬大学工学部7号館特別教室202

参 加 者：群馬大学留学生・事務職員・教員など約30名

#### プログラム

1. 開会の挨拶
2. 趣旨説明・スピーカー紹介
3. 就職活動報告（先輩留学生4名）
4. スピーカーへの質問（就職活動で最も苦労したこと、面接で聞かれた嫌な質問）
5. グループディスカッション –ここが聞きたい・疑問質問–

その他：情報提供

（今後行われる就職活動セミナー・就職相談窓口・国際教育・研究センター就職支援メーリングリスト参加の勧め等）



開会の挨拶の後、趣旨説明とスピーカーの紹介を経て、先輩留学生による「就職活動報告（4名）」が行われました。その後、司会から、スピーカー全員に対して共通の質問2題を投げかけました。この質問はいずれも、先輩の就職活動における苦労話を引き出すことが目的のものでした。最後にまとめとして、グループディスカッションを行いました。参加者それぞれが、さらに詳しく尋ねてみたいと思う先輩のもとへ行き、4つのグループに分かれての質疑応答が行われました。

4名の先輩は、背景（学部1名・修士2名・博士1名）、専攻（電気電子2名・情報1名・建築1名）が異なることもあって、その活動の方法・意識した点なども多種多様でした。参加者たちにとって、様々な観点からの報告は、これから始まる自分の就職活動をデザインするうえでの貴重な材料になったのではと思われます。また、立派に内定を勝ち取った先輩留学生にしても、就職活動は決して最初から順調だったわけではありません。誰もが苦しみや葛藤を乗り越えた末の内定であったという話は、参加者の抱いている漠然とした不安を取り除き、就職活動に向かう強い気持ちを与えるものでした。最後のグループディスカッションでは、終了予定時間が近づいても、話が途切れることなく続き、この貴重な場を逃すまいとする参加者の意欲が感じられました。

なお、今回の報告会でも、留学生以外に、学生支援担当の事務職員、留学生と関係の深い教員の方から参加をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

### 3. 先輩留学生からの就職活動報告

今年度のスピーカーの就職内定先には、これまでの2回とは異なった顕著な特徴がありました。それは、4名中3名が地元（工学部キャンパスのある桐生市、太田市）の企業への就職を決めた学生であったということです。これは、群馬大学卒業生であることで近隣企業から一定の信頼を得られる（＝就職活動で有利に働く）という利点を印象付けるものでした。

また、その一方で、今回は高度な専門知識を生かして企業の研究所に就職を決めた博士学生の体験報告もありました。これも3年目にして初めてのものでした。企業への就職を目指す博士学生の増加が見込まれるなか、このような成功例は今後に向けての貴重な成功例になると予想されます。

以下では、4名のスピーカーの報告の内容を個別に紹介していきます。



### ①姜軍（キョウ グン）さん

【国籍：中国 学年：工学研究科修士2年（情報工学）】  
【就職先：情報通信】

姜さんのお話は、丁寧な自己紹介から始まりました。決して大きい声ではないのですが、一つ一つゆっくりと、聞き手の表情を確かめるように話す態度は、最後まで変わらず、聞く側に説得力を感じさせるものであったと思われます。

お話の内容は、現在大学生が経験する、標準的な就職活動の概要を紹介し、丁寧に分析したものでした。姜さんは、就職活動の流れを、準備、実際の会社へのアプローチ、面接の3つに分け、各々の概要と、その中で使われる特有の用語などについて、重要なものに焦点をしばって説明しました。例えば「面接」に関しては、まず、「集団面接」、「個人面接」、「一次面接」、「二次面接」、「三次面接」などについて、その概要が初めて聞く人にもわかるように明快に示されました。その上で、日本人学生にも共通する一般的な注意事項と、留学生であるから特に留意しなければならない点に分けて、整理されたアドバイスがありました。

いずれの項目においても、それぞれの場合における自分の経験をふまえた詳細な説明があり、そのあとで、留学生の先輩としての助言が添えられました。例えば「就職における準備」では、まず、スケジュール調整のしかたから、当日の身だしなみ、持ち物まで、いくつもの注意事項が挙げられました。そして最後に、最も重要な準備は物を揃えることではなく、生き生きと元気な状態に自分の精神状態や体調を保つことであるという指摘がありました。

また、「会社へのアプローチ」では、アプローチの方法を、「会社説明会」、「OB訪問」、「学校推薦」に分け、それぞれの内容について説明がありました。例えば会社説明会については、「説明会」といっても、説明のみの企業もあり、その日のうちに選考試験に移行する会社もあって様々であること、したがって、当日どのような成り行きになっても慌てないですむように、持ち物を事前にチェックし、万全の準備をすることといった、経験者ならではの、きめ細かい注意もありました。

姜さんは、準備がとにかく大切であることを強調しました。一人では労力が限られるので、同じ立場の友人などと情報をシェアしあうことが大切、といったアドバイスも、時間に余裕のない留学生にとっては、貴重なものであったと思われます。一貫して、「正直が一番」であり、自分を飾り立てる必要は全くないという点を強調していたことも、姜さんにとって、これが就職活動で最も重要に感じた点であったからでしょう。できれば自分をよく見せたい、就職活動においては、そのような心理が働くのが当然です。日本語や日本事情の知識について、引け目を感じがちな留学生にとっては、そのような心情はより強いと言えるかもしれません。であるからこそ、この姜さんの言葉は貴重であったと言えるでしょう。

## 会社にアプローチ

単純に会社の説明のみを行う企業もあれば、その日に面接、あるいは選考試験に移行する企業もある。事前に持ち物をしっかりチェックしていく(筆記用具、履歴書など)

### 1. 会社説明会

・会社側が開催する説明会のことで、会社概要や募集要項などを説明するのが一般的である

### 2. 就職活動のOB訪問・OB懇談会

・卒業生、先輩を訪問し、希望する会社や企業の様々な情報を収集できる

### 3. 学校推薦

・選考の回数が少なくて済む場合やいきなり最終面接から始まるなど有利性があるので、推薦をもらうことを勧める



## 面接において注意すべきこと

1. マナーをはじめとして、元気さ、姿勢などを心掛けて面接官に好印象を与える
2. 入退室のポイント
3. 面接の際に想定される代表的な質問(自己紹介、自己PR、希望動機など)について十分な訓練をしていく
4. 面接官の質問に対して正直に答える。正直が一番だ

**緊張せず、笑顔で、正直に答えましょう**



姜軍さん発表原稿「就職活動レポート」から一部抜粋



## ②林海軍（リン カイグン）さん

（アジア人財資金構想プログラム2期生）

【国籍：中国 学年：工学研究科博士3年（電気電子工学）】  
【就職先：情報通信】

林さんは、博士課程の3年生です。博士課程の学生の就職活動は、学部生や修士の学生に比べると、わかりにくいことも多いのが事実です。この博士課程の学生の就職活動について、博士の、しかも留学生が就職活動をするとはどのようなことなのか、林さんのお話はこのような点を詳しく紹介するものでした。

まず、博士課程の学生であるから不利な点、博士課程であるからこそ有利な点に分けた説明がありました。不利な点としては、第一に、いずれにしても狭き門であることが挙げられました。すなわち、一般企業においては博士課程対象の募集数自体が少ないこと、また大手企業の研究所等は、研究分野によって採用が限られること、公的機関は外国人は採用されにくいことなどの諸事情について、整理の行き届いた説明がありました。したがって、競争は最初から厳しいものである上に、就職活動において、修士の学生と博士の学生が、同じ立場で競い合うことが少なくないことが、その厳しさに拍車をかける原因となっていると、林さんは分析しました。

一方、有利である点としては、修士の学生と比較して、専門知識が豊富であることを、林さんは第一に挙げました。さらに、自身の経験から、何らかの実務経験があれば、非常に有利になることに触れ、この利点をアピールするためにどのようなことをしたかという説明がありました。林さん自身は、自分の研究について技術面接で簡単な発表をし、アピールに成功したそうです。この技術面接へ持ち込むことが勝利のカギであると、林さんは強調しました。

就職活動に先立つ情報収集については、一般的な求職サイトで、どのように博士学生に役立つ情報を探るか、そのポイントについての説明がありました。筆記試験についても林さんは、例えば、TOEICは受験した方がいいこと、またSPI\*については、対策本が多くあるので、それを読んで勉強することが絶対必要であることを述べました。そして、その上で、以上のような、就職試験のための勉強は、日本人学生、修士の学生と変わらないことを強調し、留学生だから、博士だからといって、甘えがあってはいけない、と注意を喚起しました。これは、非常に貴重な指摘であったと思います。

お話の最後は、何より学位を取得するのが重要であること、また、内定がなかなか出ない場合でもあせらず、担当教官と相談しつつ、あきらめずに続けなければならないというアドバイスでした。これも、学部生や修士の学生のように、周囲の学生と足並み揃えて就職活動をするというわけにはいかない博士の学生にとって、非常に有益な助言であったと思われます。

\*SPI 企業の就職試験などで実施されるマークシート方式の適正検査。

## 情報収集

### 業界情報

よく利用されるサイト:

マイナビ: <http://job.mynavi.jp/>

リクナビ: <http://job.rikunabi.com/2011/>

公的研究機関、大学は別



選定した企業のHomepageを訪ね、必要な情報を収集する

### 職種情報

研究職

開発、設計などの専門職

SE、AE、FE

営業

日本企業

研究職などあり

外資系

研究職なし

## 面接

### ▶ 少なくとも3回の面接がある

1次面接: 一般的な話 (場合によって技術面接あり)

自己紹介、学校で勉強したもの、会社でやり

たいことなど (中堅社員による)

2次面接: 一歩進んだ話 (内容は近い)

(部長クラス ?)

最終面接: 会社の待遇、質問したいこと等

### ▶ 面接の際

人事のプロの前で自分をアピールすること

素直に質問に答えること (特に技術面接の際)



### ③アクハマド・イスナエニさん

(アジア人財資金構想プログラム2期生)

【国籍：インドネシア 学年：工学研究科修士2年（電気電子工学）  
就職先：メーカー】

イスナエニさんのお話は、留学生の就職活動において、内定獲得のために、どんな能力が必要であるか、特に筆記試験・面接試験などをパスするための準備や心構えについて、詳細に説明するものでした。イスナエニさんの視点は、非常にユニークなもので、多くの時間と労力を必要とする就職活動を、どのように自身の能力向上に役立てていくか、また、そのような就職活動にするにはどのようにすべきか、というところにありました。その積極的な姿勢は、就職活動に対して漠然とした不安を抱きがちな留学生に、非常に明るい印象を与えたと思います。

報告の内容は、最初におおまかな流れについての説明があり、その後、イスナエニさん自身の経験に基づいて整理されたポイントが示され、改めてポイントごとに詳しい説明がある、といったものでした。特に重点をおかれていたのが面接についてです。

まず、面接にいたるまでの過程が、簡単に説明されました。ここで注意事項として示されたのは、スケジュールを正確に、きめ細かく把握し、自分なりに整理しておくこと、エントリーの準備は、時間がかかるので、可能な限り早めしておくことなどです。さらにイスナエニさんは、面接前の重要なプロセスとして会社説明会を挙げ、参加する必要性について、自分の経験をふまえて詳しく説明しました。イスナエニさんは当初、説明会や面接での応答がどのようなものか全く見当がつかなかったため、大企業の説明会に次々と参加して、どのような質問がでるかすべてチェックしたそうです。ここで得た情報は、説明会の場のみならず、面接でも有益であったと、イスナエニさんは強調しました。

また、自己分析が非常に重要であるという指摘がありました。その会社で自分は何がしたいのか、何ができるのかを、現在から将来にわたって詳細に考える必要があること、また留学生として、自分が将来どのような生活をしたいのか、例えば日本に家族を呼ぶのかなど、具体的に考えるべきであることが挙げられました。

面接については、まず、面接は自分をアピールする場であり、「自分を見てもらう」ことが重要であるという分析が示されました。その上で、「面接での質問事項」、「企業に求められる資質」、「面接の準備」、「面接のテクニック」、「面接直前のチェック」などの大項目ごとに、ポイントがリストアップされ、丁寧な説明がありました。例えば、「求められる資質」としては、「積極性」、「独創性」、「バイタリティ」、「自主性」、「チャレンジ精神」、「状況対応力」、「キャラクター」、「体力」の8項目が挙げられ、具体的な紹介がありました。

お話の最後には、7項目の「アドバイス」が、報告の総括として示されました。留学生の先輩として、体験に基づいた貴重な助言であったと思われます。全体的に、ケース別の的確な整理と詳細な説明がなされており、初めて就職活動について聞く学生にも、非常にわかりやすい報告であったと思います。



## 企業研究(説明会・OB訪問)

### 面接について

面接の比重は  
面接は何回行うか  
面接官の人数、方法は  
内定が出るまでのプロセス  
評価のポイントは  
筆記試験の時期と傾向

### 社風について

社内の雰囲気は  
上司・先輩との関係は  
同僚との関係は  
仕事はきついか  
社訓・社歌の有無

### 仕事について

OBの仕事はどんな内容  
やりがいはあるか  
新入社員の場合、仕事の責任  
残業、休日出勤は  
出張、転勤の状況は  
志望職種は志望通りか

### 待遇について

賞与はどれくらいか  
時間外手当は  
昇進のモデルケースは  
福利厚生は充実しているか  
離職率は高いか

## 求められる資質

- ◆ 積極性 : 前向きな気持ちでテキパキと答える
- ◆ 独創性 : 自分なりのビジョンを自分の言葉で
- ◆ バイタリティ: やってきたことを具体的に(エピソード)
- ◆ 自主性: アクティブなイメージをアピールしよう
- ◆ チャレンジ精神: 乗り越えた困難でアピール
- ◆ 状況対応力: フレキシブルに対応する
- ◆ キャラクター: 人材の幅広さが会社の将来性
- ◆ 体力: 肉体的にも精神的にもタフ

## 面接の準備

- ◆ 日頃の話作りが面接時に光る
  - 本番直前の一夜漬けではあまり役に立たない
  - 面接の話作りは身近にあるものを利用
- ◆ 自己PRのレジュメを作ろう
  - 頻度の高い質問事項がある(志望動機、自己PRなど)
  - 3分程度で話せるようにまとめておく
  - 声を出して練習しておく
- ◆ 効果的な自己PRの工夫
  - セールスポイントは三つ以上考えておく
  - 一つ一つに具体的なエピソードを挙げて、オリジナル回答となる

## 面接のテクニック編

- ◆ 第一印象が勝負の決め手⇒マナー、外見にも注意
- ◆ 熱意を上手に伝える⇒根拠のない話を避ける
- ◆ 言葉は簡潔明瞭に⇒特に研究内容を説明するとき
- ◆ 落ち着いた態度で臨む
- ◆ 話し方はゆっくりくらいがちょうどいい
- ◆ 答えは結論から
- ◆ 同じことばを繰り返さない
- ◆ 自分から質問する機会を待とう⇒質問を準備しておく

アクハマド・イスナエニさん発表原稿「就職活動で成長しよう～どうせやるなら、楽しく～」から一部抜粋



#### ④ 藺林 (リン リン) さん

【国籍：中国 学年：工学部4年（建築工学） 就職先：建設】

藺さんは学部生であり、内定を勝ち取った先は地元企業です。学部生である留学生の就職活動とはどのようなものであったか、その困難さと、それを克服するために必要なこと、そして、群馬の地元企業に就職を決意した理由について、詳細な説明がありました。

まず、就職活動全般の流れについて紹介があり、その中でポイントを7項目にしぼって注意事項が詳しく説明されました。例えば、自己分析は、就職活動全体にわたって基礎となるものであり、これがしっかりできていなければ、結局成果を得られずに挫折を繰り返すこと、また、会社の生の情報を手に入れるという点で、会社説明会も、おっくうがらずに足を運ぶべきであること、などです。

藺さんのお話で、印象深かったのは、「就職活動の悪循環」についてです。誰しもスムーズに内定を得られるわけではありません。昨今の日本の経済事情では、企業の採用状況も厳しく、むしろ、内定を得られずに、落ち続ける学生のほうが多いかもしれません。そのような就職事情は、留学生の間にも聞き伝えの話として広まっており、それが漠然とした不安感につながっているものと思われます。藺さんのお話は、その不安感に真正面から切り込むものでした。

藺さんは、企業分析をし、説明会に参加、エントリーシートを提出し、書類選考を受ける、更に筆記試験、面接試験を受ける、そして落ちる、落ちたことによって焦燥感が生じ、そのような心境のまま、次の会社の企業分析にとりかかる、というプロセスを、「就職活動の悪循環」と呼び、自分の場合はこれがどのようであったか、実際の自分の就職活動スケジュールを詳細に示しながら、詳しく説明しました。

その上で、これを断ち切るポイントとして、「小さくてもいい、一社を決める」が挙げられました。事実、藺さんは地元企業を何社か受け、内定を得ることによって、そこから脱出したのです。この時、地元企業を選んだ理由は、地元企業への就職活動にあるいくつかのメリットに注目したからだといいます。すなわち、まず第一に、交通費がかからないこと。大企業の会社説明会や面接は、大部分が東京や大阪で、桐生から何回も出かけていくと、負担が大きくなります。特に、経済的に余裕がない留学生には、これは大きな問題です。第二に、群馬県内の地元企業には、群馬大学の学生に対して好印象があること。なんとと言っても、地元では一番の大学ですから、これは非常に大きなメリットであると言えるでしょう。第三には、群馬県内には、群馬大学、もしくは群馬大学の先生と、緊密な関係をもつ地元企業が少なくないことです。藺さんはこのような関係が、群馬大学の学生の採用に有利に働く場合があると指摘しました。以上3点は、群馬大学の学生のみが利用可能な「資源」であると、藺さんは強調しました。実際に彼は、このような条件を活かして地元企業の内定を勝ち取ったのです。藺さんのお話は、これから厳しい就職活動に挑む留学生に、積極的な方針を示すものであったと言えるでしょう。

## 就職活動の流れ



③エントリーする：  
エントリーとは、企業に関心があるという意思を示して応募すること。

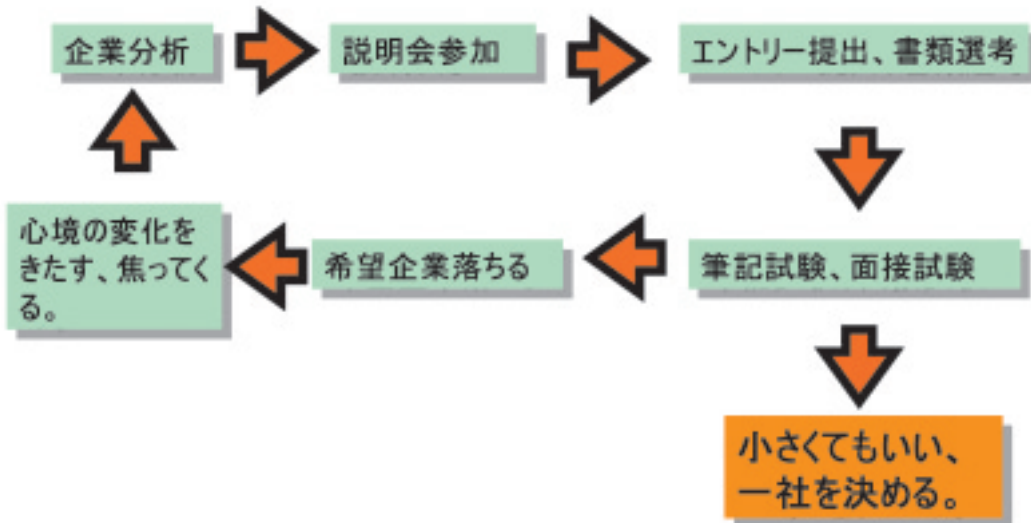
④会社説明会参加：企業のナマ情報を入手する  
説明会では、Ⅰ企業の現状 Ⅱ求める人材 Ⅲ採用試験の内容などについて説明があります。またこれらに参加しないと試験が受けられない、エントリーできない場合もあります。

⑤OB,OG訪問  
仕事の話や面接試験のポイントなどを聞く  
必要に応じて、実際に働いているOB、OGから話を伺います。

⑥採用試験  
(筆記試験、面接試験)

⑦内定、内々定

## 就職活動の悪循環



## 地元企業のメリット

①交通費の節約

②群大生への好印象(群大生を受け入れやすい)

③地元企業と群馬大学(大学の先生)の連携:  
場合によっては、すごく断られにくいです。

**群馬大学の学生だから、  
地元の「資源」をよく利用すること。**

## 4. スピーカーへの質問

### 1) 就職活動中最も苦労したこと、つらかったこと

- ・最初は面接でいろいろ質問されてとても緊張した。そのせいか、最初に受けた5～6社は全部落ちてしまった。
- ・受かるだろうと思って安心していた会社に落ちてしまって、次にどうしたらいいかわからなくなり焦ってしまった。
- ・説明会のお話でよくわからないことをそのままにしていたら、面接でそのことについて尋ねられ、うまく答えられず困ってしまった。
- ・面接で「希望する部署には行けない、希望する仕事はできない」と言われた。活動の中で自分のこだわりを捨てなければいけなかった。

### 2) 面接で聞かれた嫌な質問、難しかった質問（それにどのように答えたか?）

- ・「自分の希望している部署には行けない場合はどうするか?」と聞かれたこと。
- ・技術面接まで行って、専門についてかなり鋭い質問をされた。ここでは知らないのにあいまいに答えてはいけない。知らないことは知らないとはっきり言ったほうがいい。
- ・留学生特有の質問だと思うが、「どのくらい長く働くつもりか」と聞かれた。この場合、「できるだけ長く」と答えたほうがよい。「～年働いたら国に帰る」とは絶対に言うてはいけない。
- ・「入社した後、母国にある現地工場に転勤になった場合、給料が下がるかもしれないが、それでもいいか」と聞かれた。「必要に応じて対処する」と答えた。



**先輩：**就職活動っていつからはじめましたか？

**先輩：**説明会に行き始めたのは、1月くらいかな。その前にインターネットで情報を集めていたけど。

**先輩：**面接はいくつくらい受けましたか？

**先輩：**15社くらい受けたかなあ。最初は慣れなくて失敗ばかりだったよ。

## 平成20年における留学生等の日本企業等への 就職状況について

### 1. 留学生等の入国・在留状況の概要について

「留学」の在留資格による平成20年における新規入国者数は、19年と比べ5,226人(18.2%)増加の3万4,005人、「就学」の在留資格による20年における新規入国者数は、19年と比べ4,951人(25.8%)増加の2万4,111人となっている。

平成20年の新規入国者数を地域別に見ると、「留学」、「就学」のいずれについてもアジアからの学生が大部分を占めている(留学生78.9%, 就学生93.3%)。

さらに、国籍(出身地)別に見ると、留学生については、中国が1万4,342人で全体の42.2%を占めており、これに韓国5,516人(16.2%)が続いている。平成19年と比べ中国は4,070人(39.6%)、韓国は215人(4.1%)増加した。

また、就学生については、中国が1万2,566人で全体の52.1%を占めており、これに韓国が6,171人(25.6%)が続いている。平成19年と比べ中国は3,579人(39.8%)増加、韓国は585人(10.5%)増加している。

### 2. 留学生等の日本企業等への就職状況の概要について

平成20年においては、「留学」及び「就学」の在留資格を有する外国人(以下「留学生等」という。)が本邦の企業等への就職を目的として在留資格変更許可申請を行った件数は11,789人で、このうち11,040人が許可されており、前年の許可数である10,262人より778人(7.6%)の増加となっている。

平成20年における許可状況を主な国籍・地域別内訳で見ると

① 中 国	7,651人(前年比112人、1.5%増)
② 韓 国	1,360人(前年比251人、22.6%増)
③ 中 国(台 湾)	303人(前年比21人、7.4%増)
④ ベ ト ナ ム	189人(前年比58人、44.3%増)
⑤ バングラデシュ	164人(前年比26人、18.8%増)

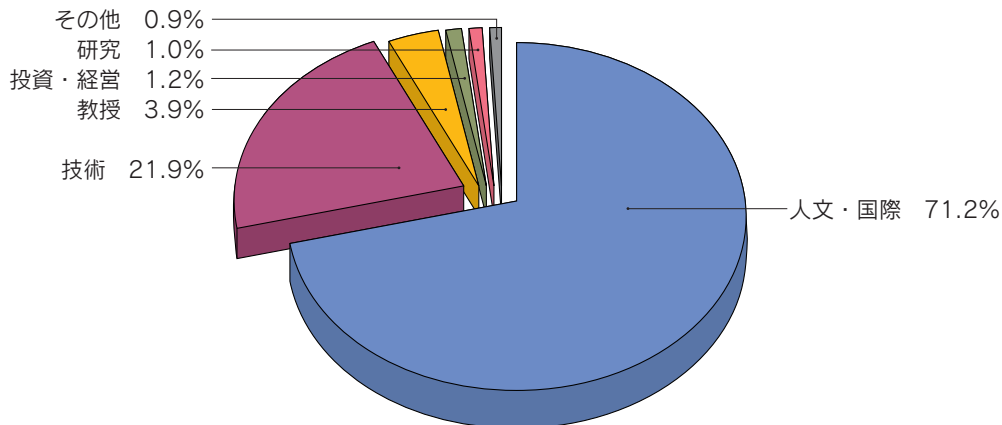
となっている。

なお、在留資格別等内訳は次のとおりである。

## (1) 在留資格別内訳

「人文知識・国際業務」が7,863人（71.2%）、「技術」が2,414人（21.9%）となっており、これら2つの在留資格で全体の93.1%を占めている。

変更許可後の在留資格別構成比（平成20年）

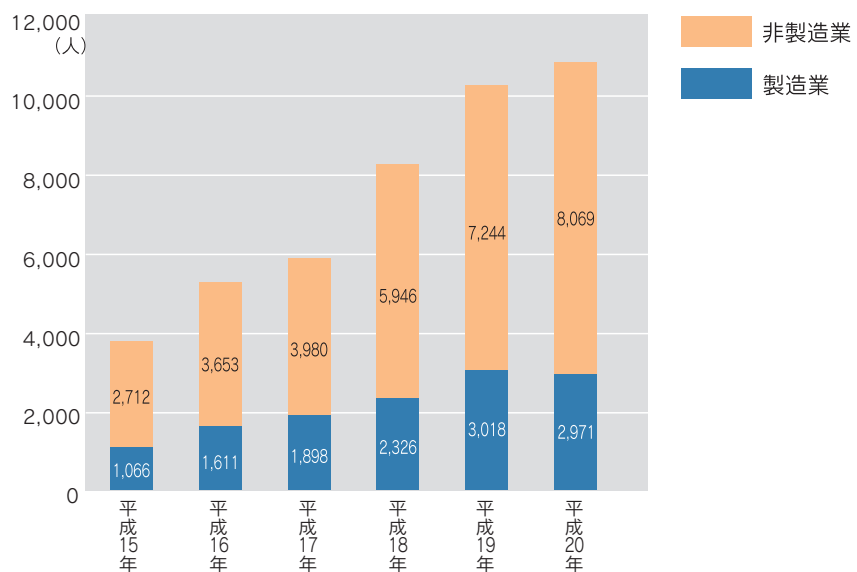


## (2) 就職先の業種

非製造業が8,069人（73.1%）、製造業が2,971人（26.9%）であり、非製造業は前年比825人（11.4%）増加しているが、製造業は前年比47人（1.6%）減少している。

なお、非製造業では、商業・貿易分野、コンピュータ関連分野及び教育分野がそれぞれ2,379人（21.5%）、1,659人（15.0%）、700人（6.3%）と上位を占めており、製造業では、機械分野及び電機分野がそれぞれ549人（5.0%）、474人（4.3%）と上位を占めている。

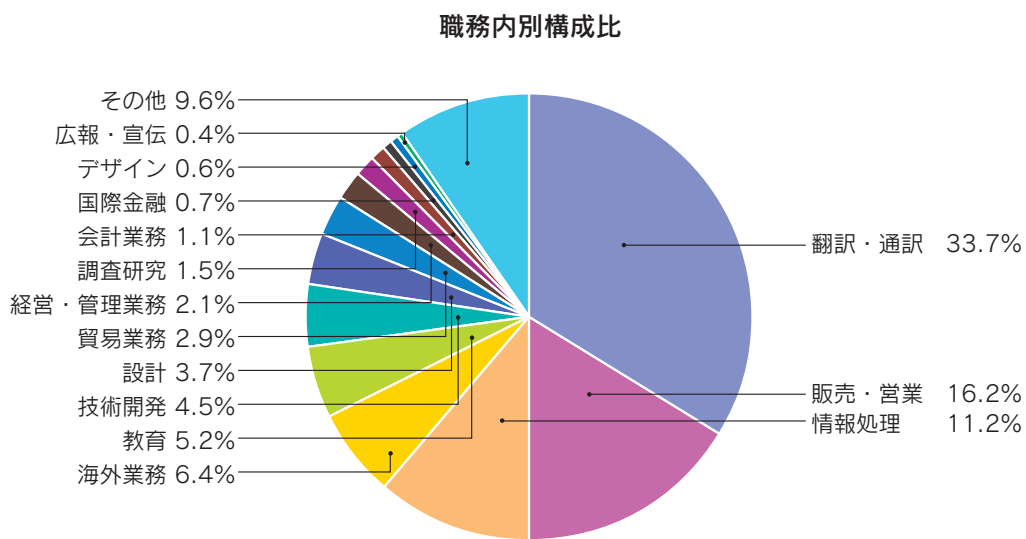
業種別許可人員の推移





### (3) 就職先の職務内容

翻訳・通訳が3,717人(33.7%)で最も多く、前年に比べ286人(8.3%)増加した。次いで、販売・営業(1,789人)、情報処理(1,240人)、海外業務(710人)の順となっている。情報処理分野で前年比2人減と横ばい傾向であるが、販売・営業分野や海外業務分野においてはゆるやかな増加傾向にある。なお、これらの4種の職務内容に従事する者は7,456人で全体の67.5%を占めている。



### (4) 就職先企業等の所在地

東京都に所在する企業等に就職した者が5,894人(53.4%)と最も多く、次いで大阪府1,003人(9.1%)、愛知県675人(6.1%)、以下神奈川県、埼玉県、福岡県の順となっている。

平成21年度 アジア人財資金構想 高度専門留學生育成事業

 **群馬大学留學生就職報告会2009**

平成22年3月

発行者：経済産業省関東経済産業局

編集者：国立大学法人 群馬大学

国際教育・研究センター

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

TEL 027-220-7627

FAX 027-220-7630

E-mail [g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp](mailto:g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp)

<http://ryugaku-ce.aramacki.gunma-u.ac.jp/>

**Center for International Education and Research, GUNMA UNIVERSITY**

4-2 Aramaki-machi, Maebashi City, Gunma, 371-8510 Japan

TEL +81-27-220-7627

FAX +81-27-220-7630

印刷・製本：上武印刷株式会社